

YAMANASHI



## 山梨県老人保健施設協議会

故 島津壽宏会長 追悼特集号



追悼のことば

山梨県老人保健施設協議会 発足以来のありし日の姿  
故島津会長とかかわりが 深い方の「しのぶ言葉」

山梨県老人保健施設協議会・役員名簿・委員会担当役員名簿

## 追悼のことば 弔辞より

山梨県知事 山本 栄彦



今は亡き、島津壽宏様のご霊前に謹んで哀悼の誠を捧げます。

八月初め、ご健康を崩されたとお聞きし、回復の一日も早からんことを念願しておりましたが、ご家族の懸命の看護と切なる願いも空しく、あなたは、かの地へと旅立たれてしまいました。

生あるものは必ず滅するとは申せ、余りにも早い旅立ちは信じ難く、失うことのあまりの大きさに、日々、愛惜の念は深まるばかりであります。

顧みますと、島津壽宏先生は昭和27年6月甲府市においてこの世に生を受けられ、平成の「赤ひげ先生」と評される御尊父、壽秀様の御薫陶とお母様の故 愛子様の御自愛のもと、勉学とスポーツに励まれ昭和53年、埼玉医科大学をご卒業になり、以来ひたすら医業の道を歩んでこられました。

お父様の壽秀様は、甲府中央外科医院から昭和40年に石和の現在地に拠点を移され、リハビリテーション医療や介護・福祉事業の先駆者として、本県の医療・福祉の向上に尽くしてこられるとともに、日本病院協会等の要職にあって我が国の病院経営の発展と医学技術の向上に力を注いでこられた、私どもの誇りとする医療人であります。

壽宏様は、こうしたお父様の志を継がれ、甲州リハビリテーショングループの総帥として、「医療と福祉と家庭を結ぶ」ネットワーク作りに専心なされるとともに、山梨県老人保健施設協議会の発足時からの会長として、また、山梨県老人保健福祉計画・介護保険事業支援検討委員会、さらには、山梨県医療審議会委員などの要職にあって本県の医療・介護・福祉行政の進展に多大の貢献をなされてこられました。

また、島津様は、全国老人保健施設協会の研修担当常務理事としてまさに東奔西走、寸暇を惜しんで全国を駆けめぐり講師として職員の意識昂揚に努められ去る7月末に本県で開催されました老人保健施設北陸甲信越地区やまなし大会においては、大会会長としてご活躍されたばかりでありました。

いよいよこれから、地域における包括的なケアシステムの確立など本県の医療福祉の発展と向上のためなお一層のお力添えをいただけるものと確信しておりましただけに、突然のご逝去は誠に残念であり、痛恨の極みであります。

「何事にも全力投球」がモットーの島津様、私どもは、もはや、あなたのこぼれるような笑顔や、ダンディーなお姿を再び見ることはできません。

しかし、家庭にあって、医療現場にあって、また地域社会にあって、信ずるところを精一杯生きてこられたあなたの生涯は、その輝かしい御功績とともに、多くの人々の胸に永久に生き続けることでありましょ。

お別れするのは哀しい限りであります。今はただ、あなたの生前の御苦勞と御功績に、深甚なる敬意と感謝を申し上げながら安らかな眠りにつかれますことをお祈りするばかりであります。

そして、あなたがこよなく愛された奥様やお父様はもとより、あなたが範を示されたグループの皆様、さらにはふるさと山梨の上に、限りない御加護を賜らんことを念願して、お別れの言葉といたします。

## 誠実な実践家 島津壽宏先生の死を悼んで



この数年、「体調はいかがですか？」とお身体の様子をうかがいながら、全国老人保健施設協会の事業に取り組んでいただきました。先日、「これから肝機能の精査目的で入院」とのご連絡をいただきました。いつもはその結果をお聞かせいただいていたのに、今回はご連絡がありません。何となく心配になり、お見舞いにかがおうと話していた矢先に悲報に接し、ただただ驚くとともに、何とも残念、無念でなりません。

島津壽宏先生と初めてお会いしたのは、平成元年11月23日の第5回フォーラムの時であり、それ以来まるで歳の離れた兄弟のようにお付き合いをさせていただきました。

翌年6月には、島津先生のお父上である島津壽秀先生、ご令室の典子様とともに「第1回全国老人保健施設大会」を、山梨県石和町において開催されたことが強く印象に残っています。以降、先生は、全老健が最も力を注いでいる研修事業の担当役員として、ご尽力されました。年間約40回の各種研修会を全国各地で開催してきましたが、いろいろな出来事に遭遇したものです。そのつど、会場近くの飲み屋で、好物のきゅうりや大根のお新香を酒のつまみに呑みながら、口角泡を飛ばし議論してきた思い出が走馬灯のように浮かびあがってきます。

先生は、常に気配りをしながら、人、仲間を大切に大変面倒見のいい方でした。そのうえロマンチストであり、

## 追悼のことば 弔辞より

社団法人 全国老人保健施設協会 会長 漆原 彰



謹んで、医療法人銀門会理事長故島津壽宏先生のご霊前に、全国老人保健施設協会会員一同を代表して、お別れの言葉を申し上げます。

去る8月30日、先生の突然の訃報に接し、ただ驚き、51歳と言う早すぎるお別れに残念な思いで胸がいっぱいあります。先生が健康を害されていたことは伺っていましたが、つい一週間程前に電話でお話した時には、元気そうな声で「体調が良くなったら必ず復帰する」と約束して下さいましたのに、本当にお亡くなりになられたとは全く信じられません。

私達の全老健も今では三千会員を擁する大きな組織に成長しています。島津先生にはそのリーダーとして平成2年から山梨県老人保健施設協議会の会長をお務め頂き、老健施設の普及と、高齢者ケアシステムの充実につくされました。

そして、平成5年4月からの全老健第三期執行部からは、六期11年の長きに亘り常務理事をお務めいただきました。とくに平成11年からの第六期、第七期は私達の老健施設が老人保健制度から介護保険制度へ、運営の根拠を移行するといった大きな転換期にあり、苦労の多い時期でした。そのような中で、先生には教育・研修事業の要として研修委員長をお務め頂き、制度の定着や提供するケアサービスの質の向上にご尽力いただきました。

さらに、今年度からは事務局の指導や、全老健共済会の代表など、全国の老健施設のリーダーとしてその地位向上のために努力されている最中でした。

また先生は、ご専門のリハビリテーションの実践者としてライフワークと言っておられた地域リハビリテーションシステムの構築にも大きく貢献され、理事長をお務めの甲州リハビリテーション病院を中心とした数々の関連施設を運営するその経営手腕は、御父様の壽秀先生から受け継いだ崇高な理念に基づくもので、多くの同業関係者の方々からも高く評価されているものと思います。

わが国の社会保障制度の改革が進む中で、私達全老健に課せられた課題は山積しています。これから先生と話し合いたい事がたくさんありました。まだ先生の研修を受けたい職員はたくさんいました。老健施設が進むべき将来を共に考え、歩んできた同士を若くして失くした事は、私達役員にとっても、会員やその職員にとっても余りにも無念でなりません。

島津先生、思えば随分長いこと、全老健の仕事をやってきましたね。今日は、いつも先生と一緒に研修や学術の仕事をしてきた、飲み仲間仲間仲良しの若月先生もお別れに来ています。全老健が出来て、最初の頃から役員をしていたのは今では、私と若月さんとお父さんの後を継いだ島津さんの三人になっていたんですね。先生は最近まで仕事がつらいなんて一言も言いませんでした。病気になっても一週間前まで、全老健の事を心配していたなんて……。こんな取り返しのつかない事になるなんて……。近くにいた我々はなんだったんだろうと我々二人共、悔やんでも悔やんでも悔やみきれない気持ちで一杯です。

島津壽宏先生のご冥福をお祈りし、あわせて生前のご業績に敬意を表し、お別れの言葉とさせていただきます。

合 掌

社団法人 全国老人保健施設協会北陸甲信越地区代表 若月 健一

高齢者の地域ケア、とくに地域リハビリテーションに情熱をささげて、「高齢者ケアは、地域ぐるみで展開する」ことがビジョンで、その実現に向けてケア活動を展開されておられました。

本年7月24日から2日間にわたって、大会長として「第2回介護老人保健施設北陸甲信越地区やまなし大会」を、甲府市湯村において開催されました。心配していたお身体をいたわりながら、甲州ケア・ホームや山梨県老人保健施設協議会の皆さんのチームワークで開いた大会は、大成功でした。終了後、コーヒーを飲みながら「いい親孝行ができましたね」と申し上げた際の、壽秀先生とともに喜ばれていた笑顔が今でも忘れられません。

このように島津先生は、ご自身の病と闘いながら、医療法人銀門会や社会福祉法人等の事業経営に、また全老健の組織強化の礎である研修事業に貢献され、大きな功績を残されました。何事にも情熱を傾け、熱心に取り組む、まさに実践家であり闘士であった先生が、信念をもって進めてこられた高齢者ケア活動を追求していくことこそが、残された私どもの大きな任務であると思います。

島津壽宏先生、ご指導いただきありがとうございました。

どうぞ安らかにお休みください。心からご冥福をお祈りいたします。

# 山梨県老人保健施設協議会



H9 いきいき山梨ねんりんピックにて



研修会で講師として



H 2/6/30  
第1回全国老人保健施設大会  
大会会長 島津壽秀様(実父)と一緒に



H 2/6/30 第1回全国老人保健施設大会  
奥様と司会をなさいました。



H 2/6/30 第1回全国老人保健施設大会  
大会を運営された皆様と一緒に



H 2/6/30 第1回全国老人保健施設大会 懇親会会場にて

# 発足以来のありし日の姿



H13/9/30 山梨県老人保健施設協議会  
第7回職員交流ソフトバレーボール大会にて



H11 全老健平成11年度第2回職員基礎研修会  
懇親会会場にて



第3回山梨県老人保健施設大会  
パネルディスカッションの座長



H12 全老健主催 甲州ケア・ホーム  
第2回実地研修研修生交流会にて



H9 全老健主催老人保健施設基  
礎研修会「老人保健施設の在宅支  
援」の講演



H15/7/24~25 全国老人保健施設協会  
第2回北陸甲信越地区やまなし大会開会式にて



H15/7/25  
第2回北陸甲信越地  
区やまなし大会終了  
後反省会での挨拶

山梨県老人保健施設協議会  
故島津壽宏会長プロフィール

平成2年6月

第1回全国老人保健施設大会が山梨県で開  
催され、大会会長島津壽秀様（実父）と一  
緒に大会を推進

平成2年12月

山梨県老人保健施設協議会を設立し、協議  
会会長に就任

平成9年8月

全国老人保健施設協会主催 基礎研修会を  
山梨会場で中心となり開催

平成11年4月

全国老人保健施設協会の常務理事に就任し、  
研修委員長として、全国施設職員のケアサ  
ービスの質の向上に尽力

平成15年7月

第2回北陸甲信越地区やまなし大会 大会  
長として大会運営に尽力

また、平成9年には医療法人や社会福祉法人  
などで構成する甲州リハビリテーショングル  
ープ本部長に就任し、全国回復期リハビリテ  
ーション病棟連絡協議会理事、山梨県医療福  
祉審議会委員など、多くの公職に従事

# 故島津会長とかかわりが



山梨県老人保健施設協議会 副会長 跡部 勝朗

去る8月30日島津先生の突然のご訃報に接し、ただ驚き51才と言う早すぎるお別れに残念な思いで胸がいっぱいでありました。

生あるものは必ず滅するとは申せ余りにも早い旅立ちは信じ難く失うことのあまりの大きさに日々愛惜の念は深まるばかりであります。

本年7月24日から2日間にわたって大会長として第2回介護老人保健施設北陸甲信越やまなし大会を甲府市湯村において開催されました。甲州ケア・ホームや山梨県老人保健施設協議会の全員のチームワークがよく島津先生のおよき御指導のもと大成功でした。先生も非常によろこんでおられました。

先生はご専門のリハビリテーションの実践者としてライフワークと言っておられた地域リハビリテーションシステムの構築にも大きく貢献され理事長をお務めの甲州リハビリテーション病院を中心とした数々の関連施設を運営するその経営手腕は多くの同業関係者の方々からも高く評価されていました。

又、先生は医療と福祉と家庭を結ぶネットワーク作りに専心されるとともに山梨県老人保健施設協議会の発足時からの会長として、また山梨県の医療福祉関係の要職にあって本県の医療福祉行政の進展に多大な貢献をなされてこられました。

いよいよ、これから地域における包括的なケアシステムの確立などで本県の医療福祉の発展と向上のため、なお一層のお力ぞえをいただけるものと確信してありましたが突然の御訃報は残念であり痛根の極みであります。

お別れするのは哀しい限りではありますが、今はただ先生の生前の御苦勞と御功績に深甚なる敬意と感謝を申し上げながら、安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈りするばかりです。



甲府南ライフケアセンター 看護師長 西村 喜代美

思いもよらぬ先生の急逝に接し、ただただ茫然といたすのみで言葉もありませんでした。何と言う事でしょう。私が最後に先生にお会いしたのは北陸甲信越地区山梨大会の折りでした。久しぶりに先生のお元気な姿に接し大変懐かしくお話しをさせて頂きました。

大会の会長として皆さん方に礼を尽くし、満足して頂けるべく大変な気遣いをなさっておりました。そんな先生の姿が今も目に浮びます。長い事先生の下で働きながら、利用者の立場に立ち利用者の事を第一に考えなければならない事と自戒に努め、日々研鑽する事の大切さをも教えて頂きました。しかし一旦仕事を離れますと先生はとても細やかに気を使われ人情の厚い先生でした。お世話になりました。全老健に県老健に輝かしい業績を残され逝ってしまいました。残念です。淋しいです。お疲れになったでしょう。ゆっくりお休み下さい。心から感謝を申し上げ御冥福をお祈りいたします。

# 深い方の「しのぶ言葉」



ノイエス 師長 松原 明子

全国老人保健施設協会の事業に取り組んでおられた島津先生が2003年葉月の終わりに、忽然と旅立たれたことは信じたくない出来事でありました。活力あふれ、常に綿密な計画と適正な行動力は誰にも真似ることができないことでした。何処に居られても若々しく弾んだ声と笑顔が今も私の耳に、心に残っています。先生に接した数々の場面が走馬燈のように思い出されます。

埼玉医科大学での新人医局員と病棟婦長としての立場で仕事をさせていただき、山梨では、老人保健施設協議会の仕事で、会議の席上では、常に気配りをいただき、私にも意見や発言の場を与えて下さいました。

「今日の講演は良かったでしょう。僕はこれからは、痴呆の介護が最も重要であると思う。この大会を通じて、社会に意見を発信していきますよ。」と熱っぽく北陸甲信越地区やまなし大会の交流会でお父様と私を前にして少年のように語られました。先生の志を介護の現場に伝え、「痴呆の介護」に取り組んで参ります。どうぞ安らかに休ませてください。心からご冥福をお祈りいたします。



医療法人南山会 理事長 川崎 光洋

九世紀中唐の詩人武陵は、「勸酒」のなかで「花開けば風雨多し、人生別離に足る」と詠嘆しました。この想いは時空を超えてこの世の真実ですし、今も私たちの胸にひしひしと迫ってきます。

老人医療・福祉に情熱を燃やし、いち早く老人保健施設を県内で開設した島津先生は、まさに花の盛りに散ってしまいました。先生とは会議の後の懇親会の席で、老健の理念や未来を語り合ったことが思い出されます。おだやかな眼差しと自信に満ちた語り口で「経営者は欲張っては駄目なんだよね」と語られた先生のお言葉は、私の胸の中に確かに残っています。

この原稿を書いている秋の一日、空は青く庭前の紅葉は燃え立ち、先生が逝ってしまったことが、にわかに信じられないくらいです。さようなら島津壽宏先生。

我も逢う死という大事紅葉燃ゆ  
立ち向かうことのいくつか秋風裡

哀しみは空より来たりいわし雲  
君逝くや散るものもなき空澄めり



老人保健施設つる 次長 天野 雄次

県内はもとより、全国的にも老人保健施設運営の第一人者としてその名の高かった故島津壽宏会長の訃報に接し、その早すぎたご逝去を心からお悼み申し上げます。

故島津会長は、全国老人保健施設協会の研修委員長として活躍される一方、県老健協会の創生期において、理事制の導入や、広報・福利厚生・研修の三委員会の設置など組織の強化整備に努められていました。その頃、私は研修委員会担当として故島津会長との強い絆を持ちながら共に研修活動に邁進することになりました。

まず、平成10年、故島津会長の強い意志により、山梨県老健大会がスタートしました。これは今年、北陸甲信越地区・やまなし大会を自信を持って開催する下地となったと思います。また、新人研修の開催においても、故島津会長は、「介護は、まず学び、そして考え、実践することで完成される」をモットーとし、新人職員に大きな期待を寄せ、毎回自ら講師を買って出られるほど力の入れようでした。

私が在任中微力ながらも協議会のお手伝いができましたことは、故島津会長との出会いなくしてあり得ず、大いなる感謝の念と共に、謹んで哀悼の意を表します。

# 山梨県老人保健施設協議会

## 平成15年度圏域別役員《理事》

任期 H14.4.1~H16.3.31

圏域別	役員定数	役員施設名	代表者名
甲府	2	N A C 湯村	輿石 詔三
		甲府相川ケアセンター	臼井 行夫
東山梨・東八代	1	甲州ケア・ホーム	今村 公一
峡西・峡南	1	ケアセンターいちかわ	山田 豊
峡北	1	峡北シルバーケアホーム	跡部 勝朗
富士北麓・東部	1	つる	和田 美典
計	6		

変更 (H15.10.1~H16.3.31)

島津壽宏 理事 今村公一 理事 (甲州ケア・ホーム)

## 役員名簿

任期 H14.4.1~H16.3.31

役員名	役員施設名	代表者名
会長代行 (副会長)	峡北シルバーケアホーム	跡部 勝朗
監事	峡西老人保健センター	川崎 光洋
監事	いちのみやケアセンター	保坂 久
顧問	甲州ケア・ホーム	島津 壽秀

## 委員会担当役員名簿

任期 H14.4.1~H16.3.31

印 委員長

委員会名	役員施設名	代表者名
研修	つる	和田 美典
	甲府相川ケアセンター	臼井 行夫
広報	ケアセンターいちかわ	山田 豊
福利	N A C 湯村	輿石 詔三

### 編集後記

「ろうけん」第14号は、「故島津壽宏会長追悼特集号」となってしまった。  
 その訃報はあまりにも唐突で、しばし信じることができなかった。山梨県老健協は、7月24、25日に第2回北陸甲信越地区・やまなし大会を開催したばかりでその余韻醒めやらぬ時期のことであり、そして島津会長は、県老健協が一致結束して創り出したこの大イベントの陣頭に立って活躍されていたからである。  
 昨年のながの大会からバトンを引き継いだ島津会長は、やまなし大会の成功のために、自らの信条を貫く大会を目指したといえる。大会参加費の負担軽減により多くの会員の参加を促す、セレモニーなどの形式にとらわれず事例発表中心に構成する、発表効果の向上のためにパワーポイントを導入する、痴呆の理解と対応をテーマに据えた二つの講演は今後の高齢者介護の大きな課題を暗示するなど、これらを数え上げると日本の老人保健施設の歴史とともに歩んできた島津会長の豊かな見識と強い信念を垣間見る思いである。  
 「余人を持って代え難い」、安易に使われる慣用語で憚られるが、失ってみてあらためて「代え難い」存在だったという厳然たる事実気づかされるのである。しかし、最後まで島津会長の胸中に去来したであろう山梨県老健協の行く末については、会員一同、「頑張ります」と宣言し発展向上の道を力強く歩むことこそ島津会長の遺志を継ぐものである。  
 島津壽宏会長の冥福を心からお祈り申し上げます。 (ノイエス 恩田 義也)

### 山梨県老人保健施設協議会広報誌

- 編集・発行 山梨県老人保健施設協議会  
広報委員会
- 事務局 〒406-0032  
山梨県東八代郡石和町四日市場2031  
甲州ケア・ホーム内  
TEL.055-263-0242  
FAX.055-263-2250
- 制作 株式会社 少国民社  
甲府市丸の内二丁目7-24  
TEL.055-226-2125